

映画上映&監督のトーク

3月30日上宮川文化センターで三上監督のお話と映画上映を行い、会場一杯の参加がありました。映画はお話をはさんで2回上映しました。

三上監督は、今回上映の「沖縄スパイ



戦史」をどんな思いで制作したのか語るなかで、「自衛隊が沖縄に配備されることに大きな問題があ

る」と言われました。「そう言っても本土の人は理解してくれないムードがある」とも、また「私たち自身の安全を確保するためにはしかたがないと言う人が多くなっている」と指摘。

さらに、「中国が沖縄近くに押し寄せてくるとの恐怖をあおっているが沖縄にとっては迷惑なこと。宮古島、石垣島に自衛隊基地を作ることは攻撃の対象になることを心配している」とも言われました。

そして、「日本が壊れてしまっていることが判っていますか。民主主義がどうなっているか知っていますか。本土も民主主義が壊れてしまっているのですよ。皆さんのまわりが燃えているのですよ」とのお話が心に残りました。また、監督は「12歳から沖縄戦のことを知ってからずっと考えてきた。戦いの場所はおもに南部からでしたが、今回は北部のこと、秘密戦のことを伝えたかった」と予定時間を20分超過する1時間20分の熱弁でした。

参加された皆さんから多くのアンケートをいただきました。今回は20歳代から40歳代の若い参加者も多かったことが特徴でした。（世話人 C・F）

アンケートの一部をご紹介します。

~~~~~

- ・沖縄に行って勉強したいと思った。  
(30代未満)
- ・とても良かったです。これまで知らなかった戦争の真実を知る事ができました。むごいシーンに途中で体調が悪くなりましたが、目を背けてはいけない！と必死の思いで観ました。(40代)
- ・資料と映像、証言の数々に重みがあり非常に見応えがありました。映画の問いかけに行動が問われていると感じました。  
(40代)
- ・映画を見て、沖縄で起きた過去のことではずまされない、現在の問題にも通じるものだと改めて感じました。自衛隊は、住民・国民を守るのではないということ、ショックですが当然だと思ひ、政府の甘い言葉にだまされてはいけないと思った。多くの人にそのことを知ってほしいです。  
(60代)
- ・軍隊は国民を決して守らない。国民を分断し、狂気の中に落とし込めてしまいます。人間としての尊厳さを失わせ、自由を極限まで束縛します。恐ろしい事です。戦争は二度と繰り返してはいけないと肝に銘じました。  
(70代)

14周年記念のつどい

『平和の光と戦争の陰』

～わが街の秘められた  
戦後史から考える～

6月22日(土)14:00～

上宮川文化センター3F

お話は坪井兵輔さん

(阪南大学国際コミュニケーション学部准教授)

\*詳細は同封のチラシをご参照ください